

『大学 1 年生からのコミュニケーション入門』
インストラクターズ・マニュアル
基礎編

中野美香・宮本知加子

福岡工業大学

目次

はじめに	ii
コミュニケーション論 I 授業概要	1
指導ガイドライン	4
授業日記	28
著者紹介	45

はじめに

本書は、コミュニケーション教育に関心をお持ちの先生を対象に『1年生からのコミュニケーション入門』基礎編の副読本として作成したものです。授業に導入する際に指針となる、タイムスケジュールを含めた指導のガイドラインと、教科書だけでは伝えきれない授業全体や学生の雰囲気を書いた授業日記で構成されています。

福岡工業大学工学部電気工学科でのコミュニケーション教育のカリキュラム開発は2007年から始まり、今年度は5年目にあたります。これまでの成果を踏まえて、本書は2011年4月から7月にかけておこなわれたコミュニケーション論Ⅰの授業を基に作成しました。

コミュニケーション教育はどのような文脈でどのような学生にどのような先生が教えられるかによって内容は大きく変わっていくものと考えます。こういった自由度が高い教育をよりよくするためには、「この授業ではこう教えた」「そうすると学生はこうなった」という日々の丁寧な細やかな知見の蓄積および研究開発が必要不可欠でしょう。

これまでの試みを以下のウェブサイトにもまとめました。今後、コンスタントに研究論文を執筆しながら、社会の様々なニーズに合わせてe-Learningも含めて教育のコンテンツを拡張していく予定です。

コミュニケーション教育のための教授学習支援プログラム

<http://www.commedu.net/>

今後、さらに教育内容を洗練させていくために、興味をもってくださる先生方や学習者の方々とネットワークを構築していきたいと考えています。ご意見・ご要望等ございましたら、お知らせいただければ幸いです。

2011年8月
中野美香
nakano@fit.ac.jp

コミュニケーション論Ⅰ 授業概要

対 象 大学1年生

期 間 半期（前期15回）

場 所 講義室

使用教材 『大学1年生からのコミュニケーション入門』 中野美香著 ナカニシヤ出版

科目の位置づけ

福岡工業大学工学部電気工学科では、2007年度入学生からコミュニケーション能力を育成するための講義を開講している。コミュニケーション能力を、自己や他者との議論を通じた対話的思考力およびそれに必要な表現力と捉え、段階的に身に付けられるプログラムとなっている。そのプログラムの始めに位置付けられているのが、前期必修科目の“コミュニケーション論Ⅰ”であり、他者と議論する能力を育成する。

1つの授業あたり、25名程度の少人数に教員1名、TA（ティーチングアシスタント）を1名配置して開講されており、学生同士の交流がしやすいものとなっている。

科目のとらえ方

社会人になるための素養を身に付け、よりよい大学生活を過ごすための導入教育を行う。

導入期：過去を振り返り分析することで、自己理解を深める。

発展期：大学生活および将来の目標を設定し、基礎的な科学的思考・表現スキルを習得する。

応用期：自分の考えを整理し、相手に伝えるための論理的な表現力を養う。

達成目標

- 現在の自分の立場、知識や能力を認識できる。
- 与えられたテーマに関する事柄を必要に応じて自分で調べ、自分の考えを整理できる。
- 他者と適切にコミュニケーションをとるために内容を論理的に整理できる。

指導上の留意点

- グループ活動では、各グループで協力して行えるよう、指導する。
- 自己理解や文化等の話題の際、言いたくないことを無理に言う必要がないことを保証し、学生の安全感を保つ。
- 意見交換の際、なかなか入れない学生がいた場合は、教員やTAがサポートしたり、学生同士の批判にならないよう配慮する。

学生観

本クラスは、25名程度に人数分けされており、すべて男子学生である。もともと女子学生は数名しかおらず、本クラスは男子学生のみとなった。入学してすぐの必修科目であるため、始めはお互いに知らない学生同士がクラスにいるという状態である。

学生たちは、指示に従う真面目で素直な学生が多い。自分のことを「人見知り」と表現する学生が多く、人と話すことに苦手意識をもっている学生も少なくない。話したい気持ちは持っているが、それをどのように行動に移したらいいのか分からないといった様子である。話しかけられれば話す、または、話しかけてほしいと思っている学生が多く見られた。科目の開講時期が、1年前期であるため、始めは知らない者同士で話をしなければならず、緊張している学生、慣れるまで時間がかかる学生も見られた。

授業計画

シラバスに掲載の内容

1. コース・イントロダクション
2. コミュニケーションとは何か
3. 自己理解を深める（1）
4. 自己理解を深める（2）
5. 自分の考えを整理し、伝える（1）
6. 自分の考えを整理し、伝える（2）
7. 様々なコミュニケーション（1）
8. 様々なコミュニケーション（2）
9. コミュニケーションと異文化理解（1）
10. コミュニケーションと異文化理解（2）
11. 議論の考え方（1）
12. 議論の考え方（2）
13. 議論の考え方（3）
14. 授業内容の理解度テストおよび解説のまとめ
15. 試験結果の反省学習

●半期間の主な内容と見通し

内容	回	学習内容・および活動	指導上の留意点
知 へ く	1	コース紹介	・コミュニケーション力が社会から求められていることを理解させる。
	2	コミュニケーションとは何か？	【グループ活動】 ・自己紹介 ・グループでの意見交換 ・自分の考えや他者の意見にきづく
	3	自己理解	
	4		
整理 の め	5	自分の考えを整理し、伝える	【グループ活動】 ・主張の型を使って、主張を組み立て、グループで発表する
	6		
知 る ・ 知 へ く	7	社会スキル	【グループ活動】 ・自分の普段の行動や文化を振り返る ・他者の行動や文化に気づく ・賛成意見、反対意見それぞれを考え発表する
	8	アサーション	
	9	コミュニケーションと異文化理解	
	10		
整理 の め ・ 伝 え る	11	議論の考え方①	【グループ活動】 ・論題を考える ・賛否両方の論点を考える ・主張を発表する ・反論する
	12		
	13		
	14	試験	
	15	反省学習	・これまでの振り返り

指導ガイドライン

第1回：コース・イントロダクション

本時の目標

- コミュニケーション力が社会から求められている力であることを理解する。
- 大学の中に学ぶべきことを理解し、今の自分にどのような力をつけることが必要なのかを考え、気づくことができる。
- グループで自己紹介し、交流を図る。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容	指導・支援
20分	<p>導入 ガイダンス</p> <p>●コースの紹介を行う。 コースの目的、授業の構成、試験と単位について、受講者に望むことを明確に示す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就職、就職活動を見据えて、大学生活を送ることが大切であることを伝える。 ・仕事をしていく上で、必要な力を理解させる。
40分	<p>講義</p> <p>●大学生の学びとコミュニケーション 大学は自発的・自律的な態度が要求される場所。 大学生の中に学ぶべきことを説明。 社会から求められる力を説明。 ⇒コミュニケーション能力・知識獲得力・着想力・思考力・表現力・論理性・独創性など *他者と円滑に仕事をするには、コミュニケーション能力が必要であることを説明し、授業の動機づけを行う。</p>	<p>【テキスト p.6】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修登録の話などを混ぜながら、高校までとの違いを説明。学生から大学についての質問・疑問があれば、話をするとよい。
60分	<p>演習</p> <p>●自己分析 8つの項目について、社会人として十分に働けると思われる状態を100点とすると、今の自分は何点であるか評価する。また、現状を分析し、今後の対策を考える。</p> <p>●振り返り 自己分析を通して、考えたこと、感じたことを記入。</p>	<p>【テキスト p.62】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ具体的に書くように指示する。 ・悪いところばかりではなく、いいところ・得意なところにも気づかせるようにする。

70分	講義	<p>●自己紹介</p> <p>よい印象をもってもらえるような自己紹介の説明。</p> <p>① 自分の現在</p> <p>② 自分の将来</p> <p>③ 相手との関わり</p> <p>●TAによるモデリング</p>	<p>【テキスト p.7】</p> <p>TA に自己紹介をしてもらい、学生との顔合わせとする。その際、3つのステップで自己紹介し、学生のモデルとなるようにする。</p>
90分	演習 まとめ	<p>●自己紹介文を考えさせる。</p> <p>●グループごとに自己紹介させる。(各グループ4名)</p> <p>●振り返り</p> <p>テキストに、他者や自分の自己紹介において、よかった点や改善点を記入。</p> <p>授業で考えたことを記入する。</p>	<p>【テキスト p.63】</p> <p>グループに入ることができない学生がいないか、配慮する。</p>

【コースの目的】

社会人になるための素養を身に付け、よりよい大学生活を過ごすための導入教育を行う。

導入期：過去を振り返り分析することで、自己理解を深める。

発展期：大学生活および将来の目標を設定し、基礎的な科学的思考・表現スキルを習得する。

応用期：自分の考えを整理し、相手に伝えるための論理的な表現力を養う。

第2回：コミュニケーションとは何か

- 本時の目標**
- コミュニケーションの基本概念，定義を理解する。
 - 身の回りにおけるコミュニケーションを分類できる。
 - 他の学生と協力して，自分が気づかなかった例を増やすことができる。

準備物 テキスト，学習スケジュール管理シート

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●前回の振り返り 大学生の間に学ぶべきことを思い出させる。 その一環として，学習スケジュール管理シートをつけ，計画能力を身に付けていくことを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回話をしたことを振り返りつつ，大学生活に対する疑問も取り上げる。 ・学生自身が身に付けたいと思っている力を取り上げながら振り返る。
25分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●学習スケジュール管理シートの説明と記入 <ul style="list-style-type: none"> ・時間割の記入 ・起床時間，就寝時間の記入 ・サークル活動やアルバイトの記入 ・学習の計画を記入 予習5項目，復習5項目 内容と時間を考え，シートに記入させる *プライベートな時間は，記入しなくていい ・実行結果を記入し，次回提出することを説明 	<p>【プリント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学は自発的・自律的な態度が要求されるところであることを思い出させる。 ・予定を可視化することで，計画能力を身に付けさせる。 *次回，スケジュールの実行結果，学習計画の達成率，反省を記入し，提出させる。
40分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーションとは何か コミュニケーションの概念と定義を説明。 	<p>【テキスト p.8】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なコミュニケーションの例を取り上げながら，専門用語としてのコミュニケーションを理解させる。
	演習 ワークシート記入	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーションの3つの基本概念について，具体例を考える。 	<p>【テキスト p.64】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人で考えさせた後，隣同士で考えさせ，具

60分		<ul style="list-style-type: none"> ① 相互作用過程としてのコミュニケーション ② 意味伝達過程としてのコミュニケーション ③ 影響過程としてのコミュニケーション 	<p>体例をたくさん挙げさせる。</p>
70分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニケーションの要素とシステムレベルについて説明 	<p>【テキスト p.8】</p>
90分	<p>演習 ワークシート記入 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●システムレベルを3つ選び、具体例を記入。 ●具体例の発表 お互いに考えたことを発表しあう ●全体で共有 	<p>【テキスト p.65】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力して、具体例を考えさせる。

第3回：自己理解を深める①

本時の目標

- 自己概念について理解する。
- 自分の知らない自分を知るためには、外在的視点を得ることが必要であることを理解する。
- 自分の意見をまとめ発表し、他者の意見を理解することができる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●自己とは何か？ 自己とはなんだろうか？ 	<p>【テキスト p.10】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身で考えさせる。
30分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●自己概念について説明 経験したことを例に挙げながら、自己概念が形成されることを説明。 	<p>【テキスト p.10】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を挙げ、理解させる。
60分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●今の状態について考える <ol style="list-style-type: none"> ① 将来、これをしていたいというものをもっているか ② 今生きている人生に満足しているか ③ 今の生活は充実しているか ④ 最近、気が沈んで憂うつということがあるか ⑤ 今幸せか チェックリストをつけ、自分の状態を振り返る。 ●グループで発表 グループ内で比較したり、どうしてそのように考えるのかを話し合う。 ●感じたことをワークシートに記入 	<p>【テキスト p.66】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かに自分と向き合う時間をもたせる。 ・話をする時に、無理に言いたくないことまで話さなくてもいいことを保証しておく。
	演習 ワークシート記入	<ul style="list-style-type: none"> ●死刑制度と喫煙の2つのテーマについて、自分の考えを誰かに伝える状況を想定して記入する。 <p>テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① あなたは死刑制度に賛成ですか？ ② あなたは喫煙に賛成ですか？ 	<p>【テキスト p.67】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が賛成の立場をとるのか、反対の立場をとるのか、考えさせる。

80分		<ul style="list-style-type: none"> ●グループで発表 <ul style="list-style-type: none"> ① 死刑制度 ② 喫煙 ●メンバーの意見を聞いて感じたことをワークシートに記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠について挙げさせる。 ・自分の意見との違いについて考えさせる。
90分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●全体で考えを共有する。 グループ内で出た意見を，発表する。 ●考えたことをワークシートに記入 	<p>【テキスト p.67】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で意見を共有することによって，多様な考え方に触れさせる。 ・グループ内で少数派の意見だった学生も，全体の中で共有されると，同じ意見の学生がいることが多く，安心できる。

第4回：自己理解を深める②

- 本時の目標**
- 人は経験を通して自己を形成し、その経験の価値を内在化していくことを理解する。
 - 他者との対話により、内在化・外在化された視点に気づくことができることを理解する。
 - 自分の意見をまとめ発表し、他者の意見を理解することができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●自分の心に残っている経験について思い出させる <ul style="list-style-type: none"> ・自分を変えた出来事 ・自分に影響を与えた人 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を思いださせる。前回の自己概念の話をしなが、経験によって自己が作られていることをもう一度確認する。
35分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●経験と価値について説明 <ul style="list-style-type: none"> ・社会的な価値 ・個人的な価値 ●価値が内在化される成長過程について説明 経験したこと、あらゆる人に影響をうけながら成長していることを説明し、自己の経験を振り返らせる。 ●自己理解と対話について説明 自己理解に重要なのは、他者との対話。 対話によって、内在的視点と外在的視点を獲得することではじめて、幅広い思考力を身に付けることができることを説明する。 *授業の中で、他者との対話をしていくことを説明。 	<p>【テキスト p.12】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を挙げ、理解させる。 ・自分が思い出した経験にどのような価値を置いているか、考えさせる。 ・どうして自己理解が必要なのかを理解させる。 ・授業の中で、他者の意見を聞くことができることを伝えることで、より授業への参加意欲を高める。
	演習 ワークシート記入	<ul style="list-style-type: none"> ●自己分析 <ol style="list-style-type: none"> ① 過去の自己 ② 現在の自己 ③ 未来の自己 キーワード（自己概念・価値・経験）を考えながら、箇条書きでできるだけたくさん挙げる。 	<p>【テキスト p.68】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん書けない学生も多い。質よりも、数を出させるように指示し、数多く出しやすいようにする。

60分	グループ内 発表 ワークシ ート記入	<ul style="list-style-type: none"> ●グループで発表 グループ内で比較し, どのような共通点や相違点があるかを考える。 ●共通点や相違点を記入 過去・現在・未来のそれぞれを記入。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通点, 相違点それぞれについて書かせる と書きやすい。
70分	演習 ワークシ ート記入	<ul style="list-style-type: none"> ●他の人の分析を聞いた感想や, 自己に対する見方が変わった点について, ワークシートに記入 	【テキスト p.69】
90分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●全体で考えを共有する。 グループ内で出た共通点や相違点を, 発表する。 ●考えたことをワークシートに記入 	【テキスト p.69】 <ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有し, それぞれの違いを認める。

第5回：自分の考えを整理し、伝える①

- 本時の目標**
- 人の印象を規定する要因には、言語情報、音声情報、視覚情報の3つがあることを理解する。
 - わかりやすく考えを伝えるためには、「内容」「伝え方」「見せ方」を工夫する必要があることを理解する。
 - 「主張＋理由＋例＋結論」の型を使って、自分の意見をまとめ、伝えることができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●はじめに、友達にどんな第一印象をもったか、経験を思い出させる。 *どのような点から、そのような印象を持ったのか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身で考えさせた後、エピソードを発表させる。クラスで共有できる内容があると望ましい。
30分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●第一印象を規定する要因の3つを説明 <ol style="list-style-type: none"> ① 言語情報 ② 音声情報 ③ 視覚情報 ●自分の考えをわかりやすく伝えるための工夫を説明 <ol style="list-style-type: none"> ① 内容 ② 伝え方 ③ 見せ方 ※相手の立場に立って考える。 	<p>【テキスト p.14】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を挙げ、理解させる。 ・考えを伝える際には、自分ひとりではなく、相手がいることを意識させる。
	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●論題「高校の制服を廃止するべきだ」について、自分の主張をワークシートに記入する。 ●グループで発表 他者の意見を聞き、意見の要約と、よかった点、改善点について記入する。 *伝え方について、5段階で評価させる(25点満点) ●評価を伝え合う よかった点・改善点をワークシートに記入する。 	<p>【テキスト p.70】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張、理由、例、結論の型にあてはめて考えさせる。 ・よかった点、改善点両方を伝えること。学生同士の批判にならないよう留意する。

65分	演習	<p>●他者の意見を聞いて、「伝え方」の目標を考え、ワークシートに記入する。</p>	<p>【テキスト p.71】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の目標として意識させる。
75分	演習	<p>●グループメンバーの意見を分析する</p> <p>① どの意見に最も説得されたか？</p> <p>② なぜその意見に説得力があったと思うか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 ・伝え方 	<p>【テキスト p.71】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分ひとりで考えるのが難しい学生には、質問してあげると、広がりやすい。
90分	まとめ	<p>●全体で考えを共有する。 グループ内で出た意見を、発表する。</p> <p>●他の人の意見を聞いて、意見が変わった点があったかどうかを振り返る。 「何がどのように変化したのか」または、「なぜ変化しなかったのか」を考え、理由を書く。</p>	<p>【テキスト p.71】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者が、それぞれの意見を発する。 ・意見が変化することは、悪いことではないことを保証しておく。

第6回：自分の考えを整理し、伝える②

本時の目標

- 議論には、主張・反論・総括の3段階があることを理解する。
- 議論には、「真理の探究」「納得」「説得」「交渉」の4つの目的があることを理解する。
- 主張は、「理由」と「例」に適切に支えられることで説得力が増すことを理解し、実際に伝えることができる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●前回の講義の振り返り 主張の型について復習する 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回、学生から出た意見を用いて、主張の型について復習。 ・様々な視点から、理由を考えたことを思い出させる。
30分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●議論には、3つの段階があることを説明 主張・反論・総括 ●議論の目的を説明 <ol style="list-style-type: none"> ① 真理の探究 ② 納得させること ③ 説得すること ④ 交渉すること ●なぜ、仕事場面で議論が必要なのかを説明 ●説得力を支えるものは 「理由」と「具体例」によって、説得力が増すことを説明。 	<p>【テキスト p.16】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議論がどのような場で行われるか、ということ仕事を合わせて考えさせる。
	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●論題「すべての自動車を電気自動車にするべきだ」について、自分の考えをワークシートに記入 ●グループで発表 他者の意見を聞き、意見の要約と、よかった点、改善点について記入 *内容について、5段階で評価（25点満点） ●評価を伝え合う よかった点・改善点をワークシートに記入 	<p>【テキスト p.72】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主張、理由、例、結論の型にあてはめて考えさせる。 ・よかった点、改善点両方を伝えること。学生同士の批判にならないよう留意する。

65分	演習	<p>●他者の意見を聞いて、「内容」の目標を考え、ワークシートに記入する。</p>	<p>【テキスト p.73】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の目標として意識させる。
75分		<p>●グループメンバーの意見を分析する</p> <ol style="list-style-type: none"> ① どの意見に最も説得されたか？ ② なぜその意見に説得力があったと思うか <ul style="list-style-type: none"> ・内容 ・伝え方 	<p>【テキスト p.73】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見を分析する際、異なった意見が出て構わないことを保証する。
90分	まとめ	<p>●全体で考えを共有する。 グループ内で出た意見を、発表する。</p> <p>●他の人の意見を聞いて、意見が変わった点があったかどうかを振り返る。 「何がどのように変化したのか」または、「なぜ変化しなかったのか」を考え、理由を書く。</p>	<p>【テキスト p.73】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者に、それぞれの意見を発表させる。 ・意見が変化することは、悪いことではないことを保証しておく。

第7回：様々なコミュニケーション①：社会スキル

本時の目標

- 社会スキルは、行動レベルでコミュニケーションに焦点を当てたスキルのことであり、様々なものが含まれることを理解する。
- 社会スキルは、他者と協調して生きていくためには必要なスキルであることを理解する。
- 社会スキルと自分の行動傾向を照らし合わせて自己評価し、今後の課題を考えることができる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●社会スキルとはどんなものか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が思っている社会スキルについて、引き出しておく。
30分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●社会スキルとは？ ●社会スキルの種類を説明 ●社会スキルは、どのような時に必要となるのか① *TAからのコメント TAの就職活動や日常生活での経験談を話す。 	<p>【テキスト p.18】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な例を出しながら、社会スキルを説明する。 ・TAから、先輩として必要だと感じた時などを話してもらうことで、より身近なものに感じてもらう。
60分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●社会スキルの主なものについて、行動傾向を評価する 得意・ふつう・不得意の3段階で評価する ●評価した項目の整理 ●得意なスキル・不得意なスキルについて、それぞれ得意にするためにはどうしたらいいのか、考える。 ●今後の課題を記入 	<p>【テキスト p.74】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間巡視しながら、言葉にイメージしにくいものがないか、確認する。 ・「得意」とつけることが苦手な学生もいる。得意なものを得意だといってよいことを保証しておく。
	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●論題「大学生が学ぶためには、実家暮らしよりも一人暮らしがよい」について、自分の主張を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主張の型を質問し、学生に答えさせる。確認してから始め、学生

80分		●グループで発表	に主張の型を定着させる。
90分	まとめ	●全体で考えを共有する。 グループ内で出た意見を、発表する。 ●フィードバック 学生の出た意見に対して、どのような視点があったかを整理して伝え返す。	・グループの代表者に、それぞれの意見を発表させる。

第8回：様々なコミュニケーション②：アサーション

本時の目標

- 社会スキルが、どのような時に必要となるのかを理解する。
- 人間関係には、①攻撃的、②ノン・アサーティブ（非主張的）、③アサーティブの3つの方法があり、アサーティブな方法が重要であることを理解する。
- 人間関係のある場面において、アサーティブな方法を考え出すことができる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●社会スキルとは？ 復習 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の社会スキルには、どのようなものがあったのか思い出させる。
30分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●社会スキルはどのような時に必要となるのか② 社会的スキルが必要となる場面 <ul style="list-style-type: none"> ③ 感情の統制 ④ 対人反応の決定 ⑤ 対人反応の実行 ●アサーションとは？ 人間関係には、①攻撃的、②ノン・アサーティブ、③アサーティブの種類があることを説明。 	<p>【テキスト p.20】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体例がないとイメージしづらいため、場面に区切って説明する。 ・自分の日ごろの人間関係をイメージさせながら、自分はどのようなタイプかを考えさせる。
40分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●アサーションの程度を測定 <ul style="list-style-type: none"> ① 自分から働きかける言動 ② 人に対応する言動 それぞれについて「はい・いいえ」でチェックする ●評価した項目の整理 自分の自己表現ができていない項目がどれかを客観的に整理する。 	<p>【テキスト p.76】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はい」とつけたものにも、アサーティブなやり方があることを説明し、項目を3つに分けさせる。
	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●ケース①について 普段の自分の行動とアサーティブな行動について考え記入する。 	<p>【テキスト p.77】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、どのような行動がアサーティブな行動といえるの

65分		<ul style="list-style-type: none"> ●グループで発表 ●ケース②について 普段の自分の行動とアサーティブな行動について考え記入する。 ●グループで発表 ●全体で考えを共有する。 グループ内で考えたアサーティブな行動を発表 	<p>か考えさせ、グループの意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが考え出したアサーティブな行動を支持し、相手を尊重したり、配慮している点を確認する。
85分		<ul style="list-style-type: none"> ●論題「大学生は、1年間海外留学するべきだ。*但し、奨学金が取れるものとする」について、自分の主張を考える。 ●グループで発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・主張の型を質問し、学生に答えさせる。確認してから始め、学生に主張の型を定着させる。
90分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●全体で考えを共有する。 グループ内で考えたアサーティブな行動を発表 ●フィードバック 学生の出た意見に対して、どのような視点があったかを整理して伝え返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者に、発表させる。 ・悪い点ばかりでなく、学生のいい点や、見られた傾向を話す。

第9回：コミュニケーションと異文化理解①

本時の目標 ●文化には、①目に見えるものと、②目に見えないものがあり、あらゆるところに文化の違いがあることを理解する。

●聴衆分析は、コミュニケーションに不可欠であることを理解する。

●自分の考えを整理し、伝えることができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●「この写真は何でしょう？」 ⇒「花見」の写真を見せ、答えさせる。 自分たちに根付いている文化について意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化を知っているからこそ、花見が分かったことを体験的に理解させる。＊花見を知らないと、桜の花はただの背景としか認識されない。
25分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●文化 「一定社会の成員が共通にもつ価値観・思考様式や感情傾向のような内面的な精神活動、言語行動の特徴などの身体表現様式、衣食住のような物質的生活条件」 <ul style="list-style-type: none"> ① 目に見えるもの ② 目に見えないもの ●文化の違い <ul style="list-style-type: none"> ・「自文化」「異文化」の説明 ・文化間距離の大小について、説明 ●相手を理解したうえでコミュニケーションをとる <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の中では当たり前になっているけれど、相手にとっては、当たり前ではないことは何か」 ●聴衆分析について説明 	<p>【テキスト p.22】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちがもっている文化について、身近なものを考えさせる。これまで、文化の違いを感じたことなど。 ・今後、プレゼンテーションを授業で行うことを伝えながら、説明することで、必要性を理解させる。
	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の文化での常識には、どのようなものがあるかを考える。 ●グループで発表 	<p>【テキスト p.78】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちは、どんな文化に生きているのかを意識させる。

50分		●全体で考えを共有する。	
80分		●論題「小学生の携帯電話の所持を禁止すべきだ」について、賛成と反対の2つの立場で自分の意見を考える。 ●グループで発表	【テキスト p.79】 ・「禁止」という言葉の意味を考えさせる。 ・小学生が携帯電話を持つことにどのような意味があるのかを考えさせる。
90分	まとめ	●全体で考えを共有する。 ●フィードバック 学生の出た意見に対して、どのような視点があったかを整理して伝え返す。	・グループの代表者に、発表させる。

第 10 回：コミュニケーションと異文化理解②

- 本時の目標**
- コミュニケーションの仕方によって、相手との関係がよくも悪くもなることを理解する。
 - 異文化とうまくつき合うためには、「批判」ではなく、「提案」をすることを理解する。
 - 自分の考えを整理し、伝えることができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●前回の「文化」の内容を思い出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の文化についての学生の感想を紹介する。
25分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●異文化に対する態度 <ul style="list-style-type: none"> ・他文化を「違い」として受け止める ●異文化とうまくつき合うためには <ul style="list-style-type: none"> ・文化には、上下・優劣はない。 ・異文化とうまくつき合うために、価値観を押し付けるのではなく、「こうするのはどうか」と提案することを説明する。 	<p>【テキスト p.24】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自文化中心主義」と「文化相対主義」について説明を加えながら、どのようにしたら、円滑にコミュニケーションを行うことができるか考えさせる。
50分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●論題「大学生は勉強すべきだ」について、①大学生個人と、②日本社会の2つの視点から、それぞれのよい点と悪い点を、できるだけ多くの論点を挙げる。 ●グループで発表 	<p>【テキスト p.80】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人で考えさせたのち、グループ内で発表し、多くの論点を挙げさせる。
80分		<ul style="list-style-type: none"> ●論題「大学生は勉強すべきだ」について、賛成と反対の2つの立場で自分の意見を考える。 ●自分は、賛成意見と反対意見のどちらを支持するか考え、その理由をテキストに記入。 ●グループで発表 	<p>【テキスト p.81】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「勉強」とは、何を指すのかを考えながら、主張を組み立てさせる。
90分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●全体で考えを共有する。 ●フィードバック 学生の出た意見に対して、どのような視点があったかを整理して伝え返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者に、発表させる。

第 11 回：議論の考え方①

- 本時の目標**
- 論題には、政策論題、価値論題、事実論題の3つの種類があることを理解する。
 - 議論において、曖昧な言葉は定義することが重要であることを理解する。
 - 自分の考えを整理し、伝えることができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●これまでの授業の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業で学習した主張の型を振り返る。また、人の意見を聞くことによって、学生自身が多くの視点を持つことができたことを支持する。
25分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●議論の3つの種類 <ul style="list-style-type: none"> ・政策論題 ・価値論題 ・事実論題 それぞれの違いを説明する。 ●論題の定義について説明 	<p>【テキスト p.26】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの論題種類を例を挙げながら説明をする。 ・定義の必要性を考えさせる。
50分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●3種類の論題を作成 ●グループで発表 	<p>【テキスト p.82】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表し、自分が思いつかなかったものも書いておく。
80分		<ul style="list-style-type: none"> ●作成した論題の中から、3種類の論題を1つずつ選び、それぞれの論題について、主張を作成する。 ●3種類の主張を作って考えたことをテキストに記入。 ●グループで発表 	<p>【テキスト p.83】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で論題を作成したり、選ぶことが苦手な学生もいるので、例を取り上げたり、質問しながら、学生の考えを引き出す。
90分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●全体で考えを共有する。 自分で作った主張を発表する。 ●フィードバック 学生の出た意見に対して、どのような視点があったかを整理して伝え返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者に、発表させる。

第12回：議論の考え方②

- 本時の目標**
- リサーチは専門知識，社会情勢，その他の教養など領域に分けて情報収集することを理解する。
 - 議論において，大まかに問題を分析するためには，賛成意見と反対意見，それに対する反論に分けて情報を整理することを理解する。
 - 自分の考えを整理し，伝えることができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●前回の論題について復習 	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの論題の種類があることを復習しておく。
25分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●リサーチとは？ 議論の準備のためのリサーチについて説明 ●リサーチカード 	<p>【テキスト p.28】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リサーチがどうして必要なのかを理解させる。
50分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●「死刑制度を廃止すべき」について賛成・反対の論点をできるだけ多く出して箇条書きにする ●グループで発表 	<p>【テキスト p.84】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表し，自分が思いつかなかったものも書いておく。
80分		<ul style="list-style-type: none"> ●賛否両方の論点に対する反論を考える ●グループで発表 <p>*反論のし方は後期で学習するため，今考えられる範囲でよい。</p>	<p>【テキスト p.85】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が作った論点に対して，反論を考える。グループ内で，反論を考えさせて伝えあってもよい。
90分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●主張を作る。 主張の型に沿って，主張を考える。 ●フィードバック 学生の出た意見に対して，どのような視点があったかを整理して伝え返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者に，発表させる。

第13回：議論の考え方③

- 本時の目標**
- ディベートの方法を理解する。
 - ディベートを通して、高度な能力を身に付けることができることを理解する。
 - 自分の考えを整理し、伝えることができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	<ul style="list-style-type: none"> ●本日の流れの説明 ●後期に行うディベートの話をし、見通しを持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちがディベートをできるようになるイメージを持たせる。
25分	講義	<ul style="list-style-type: none"> ●ディベートとは？ ディベートの形式について説明する 	<p>【テキスト p.30】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩の写真を見せ、イメージをつかませる。
40分	演習	<ul style="list-style-type: none"> ●「学内全面禁煙を分煙に戻すべき」について賛成・反対の論点をできるだけ多く出して箇条書きにする ●グループで発表 	<p>【テキスト p.86】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで発表し、自分が思いつかなかったものも書いておく。
80分		<ul style="list-style-type: none"> ●4人グループで、賛成の人と反対の人を決める ●第三者を説得するつもりで自分の立場の主張を書く ●グループで議論 賛成意見・反対意見の順で発表させる。 それぞれの主張を発表した後は、賛成2人、反対2人に分かれて、相手の主張に反論しあう。 	<p>【テキスト p.86】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の主張に対して、反論する際、反論の仕方はまだ学習していないので、自由に議論させる。 ・反論のしづらそうなグループには、疑問に思ったことを質問させるように働きかける。
90分	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●グループで最も説得された意見と理由を考え、ワークシートに記入し、発表する。 ●フィードバック 学生同士の議論について、よかったところ、活発にできていたところをフィードバックする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの代表者に、発表させる。

第14回：定期試験

本時の目標

- コミュニケーションについての理解を確認する。
- 自分の考えを整理し，主張の型に沿って主張を組み立てることができる。

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入	●試験の説明	
70分	試験	●筆記試験	
90分		●アンケート	

第15回：反省学習

本時の目標

- 考えを整理し伝えることができる。
- 自分の考えを整理し，主張の型に沿って主張を組み立てることができる。
- これまでの学習を振り返り，自分の変化に気付く。

内容

時間	内 容		指導・支援
20分	導入	●試験の結果について	
50分	講義	●主張 これまでの復習を含め，グループで主張をさせる	・後期の学習につながるように，説明をする。
80分		●学習の振り返り	・学生が出来るようになったところを言語化し，伝える。
90分	まとめ	●まとめと後期の授業について説明	

授業日記

2011.4.7.

「講義初日」

今日は、コミュニケーション授業初日でした。

まだまだ、周りの人と話をしたことがない人も多いようで、出席番号順に並び直すと、さみしそうでしたね。

さて、大学に入って、いきなりコミュニケーション？就職活動？と思った人もいるかもしれません。やっと受験が終わって、就職活動のことは、まだまだ先…と思っていたのに、という人もいたでしょう。

しかし、企業に求められている力は、「コミュニケーション能力」であるというお話をすると、とても真剣に聞いてくれていました。人と円滑に仕事をする事の大切さは、みなさんも感じているようですね。また、就職活動に対する意識も高い学生が多かったように思います。

コミュニケーション能力は、すぐに身に付くものでもありませんし、勉強すれば身に付くものでもありません。

他者と関わりながら身に付けていくものですよね。

この授業では、社会人になるための力を意識して取り組みます。

まさに主体性が求められている授業です。

ですが、肩に力を入れる必要はありません。

一緒に、1時間ずつできることを増やしていけばいいですよ。

みなさんには、将来、希望する進路に進んでほしいと、心から願っています。

大学生活、充実したものにしてください。

学習ももちろんですが、自分がやってみたいと思うことや、好きなこと、アルバイトなど、たくさんの経験をしてもらいたいと思っています。

講義では、まずは出席し、自分でやってみる。

一緒に学んでいきましょう。

「講義 2 日目」

みなさん、大学には、少し慣れましたか？
大学の講義が始まって、1 週間が過ぎましたね。

大学のスケジュールが少しわかってきて、少しほっとしてきたところでしょうか。
これまでは、教室を探すことから大変だったかもしれません。
履修登録や単位についても、始めてのことだと思います。
分からないことは、人に聞いたり調べたりして、少しずつ解決していきましょうね。

人間は、わからないものには不安を抱くものです。
見通しが立たないと、漠然とした不安があったりするかもしれません。

でも、こうしてみんなと一緒に話していると、それだけで安心するということもあります。
少し話をして、笑いが起こればなおさらです。
まだあまり知らない人でも、「あ、同じこと考えてたんだ」とか、「面白い人だな」と気が楽になったり
します。

まだまだ、自分のペースがつかめていないという人もいるかもしれません。
まずは、新しい環境に慣れるために、心を使ってくださいね。

「ゲームと自己理解」

今日は、授業内の少しの時間を使って、ゲームをやってみました。

「たいたこゲーム」と「印象ゲーム」。

たいたこゲームは、2人1組になって、「たい」の人と「たこ」の人を決めます。

お互いに向かい合って、握手をする格好で手のひらを離しておきます。

「たーたーたーたこ」という掛け声がかかると、たこの人が相手をたたき、たいの人は逃げるというゲームです。

はじめは、「ゲーム？」という学生たちでしたが、やってみると、すごい音！

「パーン」という音を鳴らしながら、真剣になっていました。

たこが呼ばれるのか、たいが呼ばれるのか、とても集中して聞いていましたね。

音が鳴るとともに、「やったー」とか「やられたー」とか言いながら、笑いがおきていました。

もう一つが「印象ゲーム」です。

背中に白い紙を貼り、本人には見えない状態にします。

しばらく歩き回り、手を叩く合図で近くの人と2人ペアになります。

それから、お題の発表。

相手のことをよく見て考え、色や職業に例えてもらいました。

これは、とても悩んでいましたね。

それぞれが、一生懸命考えてくれていたようです。

「カメラマン」とか「警察官」とか、「お笑い芸人」、「課長」など、様々なものが出ていました。

なるほどというのも多かったです。

なぜ、このようなゲームをしたかというと、

学生同士、まだお互いを知らない状態で、

緊張もしている時期なので、

楽しく色々な人と話をする機会を作りたいと思ったからです。

学生からの感想も、「ゲームが意外と面白かった」というものが多くありました。

そう、“意外と”。

まわりの人と一緒に笑って楽しいことですね。

歩き回ったことで、あまり話したことのない人とも交流できたようでした。

また、「あまり気にしていなかった人のことも、一生懸命考えることができたのでよかった」という感想もありました。

話してみると、とても面白かったり、気難しそうに見えても話しやすかったり。

いつもとは違う角度で、発見ができたようです。

それから、今日の授業では、

死刑制度と喫煙の2つのテーマについて、賛成かどうか自分の意見を考えてもらいました。

まず、自分の意見をまとめる。

次に、友達の前で発表する。

最後に、全体でどのような意見が出たのか共有しました。

賛成・反対、それぞれの立場の人がいました。

自分の考えとは違う考えを聞くことができたことは、とても有意義だったようです。

自分ひとりでは浮かばない考えを知ることができたという感想は多く聞かれました。

他者の意見を聞くことによって、自分の見方考え方も理解できていくと思います。

今後、いろんな意見に耳を傾けて、自分の考え方に取り入れたり、修正したりしていってくださいね。

2011.4.28.

「自己理解② ー素直さー」

今日は、これまでの経験を振り返ってもらいました。

「過去の自分があってこそ、今の自分がある」

そんな言葉を、何だか聞いたことがありますよね。

まさに過去の経験があってこそ、今の自分が形づくられているー

聞いたことはあるし、わかっているつもりでも、自分のこととなると意識していないことは多いものです。

また、それぞれの人生において、

影響を与えた人、出来事もあることでしょう。

まず、自分の人生で影響を与えた人というと、だれを思い浮かべますか？

小さなころから、最近まで考えていくと、いかに多くの人の影響を受けてきたか、ということにも気づきます。

たくさんの人に関わりながら、生きてきたのだと。

さて、自分にとって、影響を与えた人はどんな人だったか、少し考えてもらいました。

少し、気恥ずかしさがあったり、嫌だった人のことも思い出したり、思い巡らしていたようです。

それぞれの影響を与えた人には、

両親、父、友達、先生（クラス担任、顧問）、などが多かったように思います。

その理由を読んでいると、みんなの素直な気持ちが書かれていました。

自分が、その人のおかげで今があること、感謝していること、考えを変えることができたこと、自分の力になっていること。

その一方で、あまり影響を感じられないという人もいたようです。

それもまた、素直な気持ちです。

この素直さがとても大切なのではないかと感じました。

人の話を聞いて、自分と似ていると感じたり、違うと感じたり。

自分の素直な気持ちと向き合って、自分が理解されていくのだと。

そして、また考えを深めていくうちに、新しい発見があるかもしれませんね。

「自分の考えを整理し、伝える①」

今日は、主張＋理由＋例＋結論という主張の型を使って意見を組み立て、グループ内で発表しました。

そして、グループのメンバーの発表した意見の要約と、よかった点、改善点を見つけ、さらに、伝え方について評価をしてもらいました。

授業の感想には、次のようなものがありました。

「みんな似たような意見ばかりだろうと思っていたが、いざ人の意見を聞いてみると今まで思いつかなかったような意見が多く出てきたのでとても参考になった。

改めて今日、人と自分のものの考え方は違うことが認識できたので、これから人の話にちゃんと耳を傾けようと思った。」

「良い印象を持たれるには相手のことをよく考えながら接することが大事だと思います。伝え方ではどうやったら相手に伝わるかを考え、話す内容、話し方を上手く組み立てて行くことが大事だと思いました。」

人と自分のものの考えかたは違うということ、

また、相手がいるからこそ、どのように伝えたら伝わるのかを考えなければならないこと、大事なことです。

また、今日は、友達の評価をつけてもらいましたが、これは、少し遠慮がちだったように見えました。

人に点数をつけるというのは、つけづらいんですね。

嫌な思いをさせてしまうかもしれないと心配した人もいるかもしれませんね。

実際に点数を付けてもらったり、コメントをもらって、どのように感じましたか？

嫌な気持ちがしましたか？

もし、何もコメントがもらえなかったら、その方がさみしい気持ちになるのではないのでしょうか。

自分を見てもらえない、関心をもってもらえないとさみしい気持ちになりますよね。

みんなが感じたことを照らし返すことによって、本人が気づくことができることは、多くあります。

本人が自分で気づいていないような、いいところもあると思います。

是非、教えてあげてくださいね。

また、お互いに教えてあげられる関係になって欲しいと思っています。

2011.5.19.

「自分の考えを整理し、伝える②」

今日も主張を組み立てて、お互いに伝える練習をしました。

学生を見ていると、お互いに話をしている時は、生き生きとしています。
また、感じたことを聞いてみると、

「いろんな見方があって、面白かった」

「自分とは違った考えを知ることができた」

と、話し合いをととても面白く感じているようです。

あ、みんな話したいんだな。

また、自分の主張についての評価を聞いて、

「改善するところが分かった」

「もう少し、間を開けた方がいいことが分かった」

など、人の評価を受け入れて、自分の中に取り入れてくれているようでした。

やっぱり、人と話すっていいな。

そう素直に思いました。

まずは、たくさん、みんなが話せたらいいな、

そして、少しずつ、難しい論題にも挑戦していきましょうね。

「社会スキル」

コミュニケーションにおいて、どのような社会スキルが必要となるのでしょうか？

何となく知っているような…

かといって、全部は分からないような…

そのように思っている人も多いのではないのでしょうか。

この授業では、

「それくらい知ってる」ということも、あると思います。

けれど、

「そうか！そのために知らないといけなかったのか」ということも多くあります。

これまで身に付けてきた皆さんのスキルは、

とても優れているもの、まだまだ磨きあげることができるもの、

あまり身につけていないもの、知らないもの、

バランスを欠いた状態です。

それを、社会に出ていく前に、整えるという段階が今の皆さんの段階です。

自分の状態に

「気づく」と「気づかない」では、大きな差に繋がります。

大学生活には、様々な経験ができる場があります。

自分の関心があること、やりたいことを経験しながら、社会スキルについても点検してみてください。

そして、疲れた時や困った時、

人に助けを求めることもスキルの一つです。

一人で抱え込まずに、人に相談したり、頼ったり、お願いしたりしながら、

大学生活を充実したものにしてくださいね。

「疲れている学生」

今日は、学生が疲れて見えました。

話を聞くと、2限目の授業にエネルギーを注いだようですね。

プレゼンテーションをしなければならず、その準備と発表に大変だったようです。

授業初めには、しゃんと座っていた学生たちも、

何だかだんだんと、疲れ、だるそうにしていました。

また、そういう学生が増えれば増えるほど、不思議と全体の雰囲気もそうになっていくのですよね。

いつもよく聞いている学生も、だるそうにしているので、これは、よほど大変だったのだと感じました。

大学生になって2か月の皆さんにとっては、とても大変な、そして大事な関門だったのでしょね。

さて、学生の疲れている理由は分かりましたが、授業は授業です。

やらなければならないこともあります。

さて、どうしたものか・・・と思いつつ、学生たちに話しました。

2限目にあった授業で、それぞれがよく頑張ったこと。

1年生のみんなにとって、大変な課題だっただろうこと。

それでも、この授業でも最低限の課題まではやってほしいこと。

今日の課題を少し絞って、そこまではそれぞれがしっかりやることを決めました。

すると、学生は少しすっきりしたのか、それまでよりも、課題に取り組んでいました。

そして、その日の感想には、

「みんなダラッとしていた。来週はシャキッとできるように頑張りたい。」

「結構みんなだらだらしていたので、次はしっかりしたい。」

と、書いてくれている学生がいました。

やりたくないわけではないんだな。

私は、学生の頑張りたい気持ち、学ぼうとする気持ちを、大事にしたいと思っています。

学生自身が感じている気持ちを大事にすることで、

自分で気づき、行動できるようになっていくのだと思います。

次の授業では、シャキッとした学生の姿を期待しています。

「賛成意見と反対意見」

今日は、一つの論題に対して、賛成意見と反対意見の両方を書いてもらいました。

これまでは、どちらかの立場を決めて、その理由を考えるというスタイルでした。
お互いに意見交換をして、色々な考えに触れていましたね。
グループで発表するときに、意見が分かされると、それが面白いようでした。

今日は、自分自身で両方の意見を考えてもらおうと、
「難しい」という声も聞こえてきました。

けれど、これまでの話し合いで増えてきた視点を総動員して、それぞれが主張を組み立てていました。
私から見ると、随分と主張の組み立てが上手になっていますし、書くのが早くなっています。
学生の柔軟さを感じています。

学生の感想には、
「自分の意見を持ちたい」
と書いてあったりします。

それぞれが、考えたり、意見を伝えたり、人の意見を聞いたりすることが面白くなってきているのではないのでしょうか。
また、友達がしっかりとした意見を持っていると、「すごいな」「自分もそうなりたい」と感じている学生もいるようですね。

日常生活でも、
自分のこれからを考えるうえでも、
お互いに意見を言い合ったりしていけたらいいなあと思います。

「大学生らしさ」

今日のあるクラスでの授業。

いつものようにグループで意見を出し合い、
それから、自分の主張を組み立て、
また、自分の意見を発表しあう。

それは、ごくごく自然に、みんなが意見を伝えていて、
ごくごく自然に意見を聞いていて、

ふと、

あ、みんなが自分でできている
と感じた授業でした。

自分で考える時は、机に向かって考えて、
人と話すときは、お互いに向かい合って話しあい、

なんというか、
自分たちで自由に、秩序も保って。

その姿が、とても生き活きとしてて、
これが、自立した姿なんだろうなと感じました。

それぞれが、やることをやって、
自分で考えたことを表現して。
それをお互いに受け止めあえる雰囲気というのが、
とても自由に感じました。

自分のことを自由に表現できているというのは、
みんなにとっても有意義な時間ではないでしょうか。

「今日は、今までの中で一番難しかった」
と言っていた学生もいました。

それでも、分からないことを分からないといって、

何とか意見を出しあおうとしたり
そんな雰囲気がとてもいいなあと思いました。

まさに、大学生っていいなあと思う瞬間です。

6月も半ばをすぎ、疲れが溜まってきている時期です。
学生たちも、日によって、
湿度とともに、なんだかじっとりとした雰囲気の時もあります。

それでも、こんな風に自分たちで話ができる学生を見ていると、
私自身、学生がどんな学生生活を送っていくのか、
とても楽しみです。

随分と暑くなってきました。
体調には、気をつけて、前期を乗り切りましょうね。

「論題作成」

今日は、論題の3つの種類を説明し、みんなにも論題を考えてもらいました。
政策論題、価値論題、事実論題。

おそらく、始めて聞いたという人も多かったのではないのでしょうか？

これまで与えられた論題に対して、考えるということをしてきましたが、
今日は、自分の中から、作り出すという作業をしなければなりません。

自分が日ごろから抱えている問題や情報を動員しなければなりませんね。

実際にやり始めると、
さすがは大学生、柔軟に考えていましたね。

また、節電に関するものが多くでてきました。
「クーラーよりも、扇風機がよい」といったテーマを考えた学生もいて、
まさにタイムリーな論題を考えてくれました。

また、福工大に関するものも考えていましたね。
「女子学生を増やすべきだ」
というのもありました。
なかなか、切実なようでした。

議論、というと、
何だか難しいもののように聞こえますが、
日常生活の中にも、仕事をしていく上でも、必要不可欠なものです。

発想を広げながら、楽しく学んでいきたいと思っています。

「入学して3か月」

間もなく、入学して3か月が経とうとしています。

この3か月どのように過ごしてきましたか？

履修登録に始まり、分からないことも多かったことと思いますが、もうすぐ定期試験を迎え、大学の半期の過ごし方が見えてくるのではないかと思います。

コミュニケーション論Ⅰを履修している学生には、いろいろな人と話し、考えを聞く機会を持ってほしいと思い、毎回、グループ分けをしては、グループ活動を行ってきました。

テーマによって、考えが浮かびやすかったり、難しかったりと思いますが、それぞれが、友達と話しあう中で、考えを広げていたように思います。

ある学生が授業の感想を書いてくれました。

- 「三か月間のコミュニケーション論の授業を受けてみて、この授業は文章力であったり考える力、コミュニケーション能力がかなり身に付く授業だと思います。いろいろな論題に対して自分で考えて友達とそれを発表しあうことで自分の意見を相手にどう伝えるかということや自分の発表の仕方について友達から指摘を受けることで自分はここが悪いということを知ることができました。また相手の意見を聞くことでこういう考え方もあるのかということがわかったり自分と反対の人の意見を聞くことで自分の考え方が変わったりと授業を通してたくさんの気づきをすることができました。

この三か月間を通して実際に自分のコミュニケーション能力があがったとは正直わかりませんが文章をまとめる力や考えるスピードは間違いなく上がっていると思います。残りの授業が終わった時にコミュニケーション能力が上がったところを実感できるように頑張っていきたいと思っています。

大学生の柔軟さ、成長は、本当に目を見張るものがあります。

今後も楽しみにしています。

「ディベート入門」

今日は、ディベートについて説明をしました。
はじめて、ディベートの方法を知ったという学生もたくさんいたようです。

まず、いつものように主張を組み立てて、賛成の人・反対の人に分かれてグループ内で発表してもらいました。

そして、その後は、「そうは言い切れないんじゃない？」などと言いながら、反論してもらいました。
今回は、反論の仕方を学習する前ですので、自由に話し合うという形にしました。

今日の議論を通してとても興味深かったのが、
反論というよりも、「納得しました」と受け入れている学生がとても多いということ。
相手の意見を聞きながら、「確かにそうかも」と言っている学生も多かったようです。

相手の主張に対して、“それが正しくない可能性”を考えてもらっていると、
何か引っかかりは持っているけれど、それをどう伝えていいか分からなかったり、
はっきりしないことが多かったようですね。
どこまで納得していて、どこに納得していないのか、
自分でもはっきりしないので、伝えるにくい面もあるようでした。

一方で、とにかく何か反論してみるというスタイルで行っているグループもありました。
何か言ってみる、何か言ってみることで、また話が広がり面白がっているようです。

後期には、反論の仕方について学びます。
そうすると、より議論が深まるので面白くなってくると思いますよ。

今の自分たちの話し合いの感覚を覚えておいてくださいね。
1年次が終わるころには、自分の成長を実感できるはずですよ。

最後に、学生の感想でうれしかったのが、
「始めは、なぜこのような授業があるのだろう？と思っていたが、間違いなく将来のために必要になってくると思った」というものです。

授業を通して、「学生たちに伝わっている」と感じる瞬間です。

2011.7.14.

「定期試験」

今日は、試験でした。

それぞれが、主張の型を使ってたくさん書いていました。

読むのが楽しみです。

2011.7.21.

「コミュニケーション論Ⅰ 最後の授業」

今日は、コミュニケーション論Ⅰの最後の授業でした。

最後の授業といっても、後期にはコミュニケーション論Ⅱがありますから、完全に終わりという訳ではありません。それでも、半期間という一つの節目ですから、大事な日だと思っていました。

これまでの授業を振り返ると、
学生が自分で主張を組み立てられるようになったり、
グループで発表し、意見交換できるようになったり、
随分と成長を感じられるものでした。

学生の素直さ、柔軟さが感じられて、今の学生たちの伸び盛りを感じています。

また、学生自身が、「話したい」「意見を持ちたい」「もっとコミュニケーション力をつけたい」という気持ちを持っているので、
その気持ちを大切にしたいなあと思っています。

最後の回、学生と話をしながら、
他者と話すの重要性を感じていたり、
何より、楽しいと感じてくれていることに嬉しく思いました。

この授業を進めていく中で、
“議論スキルを身に付けさせる”こと以前に、
話をすることが楽しい、面白いと感じられることを大事にしてきました。
何より、議論に抵抗を持たない学生を育成したいと思っていました。

なぜなら、社会に出ていく中で、
自分ひとりでできることは、ほとんどないからです。
他者と話すことは、避けて通ることができないと思います。

最後の回で、学生たちが楽しそうに見ているのを見て、
後期も楽しく学んでいきたいなと感じました。
後期を楽しみにしてくれている学生もいます。

後期は、反論を学習し、ディベートを実践します。
より、議論が活発になると思います。
期待しててくださいね。

著者紹介

中野 美香

福岡工業大学工学部電気工学科 助教。

九州大学大学院比較社会文化学府国際社会文化専攻博士後期課程修了。博士（比較社会文化）。

知の基盤となる領域横断的な人間の思考の発達について、(1) 大学生・大学院生（18 から 30 才くらいまでの時期）の発達段階、(2) 他者との相互作用による思考過程の影響、(3) 学習が最適化される学習環境づくり、(4) これらの教育に関するプログラム・カリキュラム開発、について研究を行っている。近年は議論における思考と表現のスキルに注目し、工学教育の手法の開発に従事。近著『議論能力の熟達化プロセスに基づいた指導法の提案』ナカニシヤ出版（2011）。

（プログラム全体の教育設計および「1 指導ガイドライン」開発担当）

nakano@fit.ac.jp

宮本 知加子

福岡工業大学 FD 推進機構特任教員。臨床心理士。

大学卒業後、通信制高校の教諭となり、国語科を担当。不登校クラスを担当し、不登校に悩む生徒・保護者に寄り添ううちに、臨床心理学を学ぶ必要性を感じる。その後、九州大学大学院人間環境学府実践臨床心理学専攻専門職学位課程修了。スクールカウンセラー、発達教育センターでの教育相談員を務め、不登校や発達障害に関する相談に携わる。また、特定非営利活動法人「九州大学こころとそだちの相談室」と福岡市の共働事業の 1 つである心理教育を市内の小中学校にて担当。福岡工業大学での『プレゼンテーション』『コミュニケーション論Ⅱ』の非常勤講師を経て、現職。

（「1 指導ガイドライン」「2 授業日記」執筆担当）

c-miyamoto@fit.ac.jp